

総合的な学習の副読本作成による地域協働型 教材開発と評価・改善に関する実証的研究

——総合的な学習「宇治学」の実践上の課題——

橋本 祥夫

1 はじめに

京都府宇治市では、全市の小中学校の「総合的な学習の時間」（以下、総合的な学習）を「宇治学」と称し、地域素材や地域活動をもとに学習する時間としている。しかし、指導に関しては、教科書がない領域であり、指導者側の負担が大きく、探究学習が十分にできていないことが大きな課題となってきた。

本研究は、平成26年度から、京都文教大学地域協働研究教育センターの「地域志向協働研究」として宇治市教育委員会と共同研究を行ってきた。共同研究では、宇治市内の全ての小中学校で使用する「宇治学」副読本を作成するとともに、指導計画、教師用指導資料集、ワークシートを作成し、その活用方法を検討する。平成29年度からは、これまでの共同研究を基盤に、授業実践と学習効果の実証的検証、及び評価・改善をし、地域協働型教材開発を行う。

本研究の目的は、副読本作成に留まらず、授業実践の評価・改善を図ることにある。従来の地域学習では、副読本作成はしてもその見直しや授業改善までは行われてこなかった。本研究により、地域社会の一員としての自覚を持ち、主体的、協働的、実践的態度を養うことが可能な「地域協働型学習モデル」を提示する。

今年度の研究の目的は、児童の実態を把握し、「宇治学」を実践する上での課題を明らかにすることである。

2 研究目的

児童・学校を対象とした調査研究を行い、「宇治学」のレディネス¹⁾を分析し、「宇治学」実践上の課題を明らかにする。

3 研究の方法

3-1 調査の枠組み

本研究では、「宇治学」の目標達成及び「宇治学」で育てたい力を児童に確実に身に付けさせるための授業改善に資するとともに、作成した副読本の実践に活用するため、本年度から「宇治学」副読本の使用を開始した3年生と6年生の児童を対象に質問紙調査を行った。なお、本年度から「宇治学」の学習が始まったため、3年生と6年生を比較して、3年生から6年生までにどのような変化があったのか、何が伸びたのか、伸びなかったのかという比較はできない。各学年段階で「宇治学」を始めるにあたり、レディネスがどのような状態であるのかを把握することが本研究の目的である。

本調査の質問は、「宇治学」の目標と育てたい力（資質・能力）の評価観点の達成状況を把握するため、評価観点を基に作成したものである。資質・能力の評価観点は、「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他の人や社会とのかかわりに関すること」の3つの観点である²⁾。さらに、資質・能力と生活・学習習慣に関連があると考えられることから、生活・学習習慣に関する質問も行った。質問は、全国学力学習状況調査の質問紙を参考に、宇治学を実践する上で関係がありそうな項目を選んだ。

また、学校の教育活動や地域との関係が児童の資質・能力に関係していると考えられることから、学校の教育活動や地域との関係を問う学校質問紙も実施した³⁾。

詳細については各設問の結果とともに述べることにする。本研究の調査をプレテストとし、実践を終えたあとに同じ設問の質問紙調査をポ

ストテストとして実施することを計画している。

3-2 調査の概要

本調査は、宇治学を実践するにあたっての児童や学校の実態を試験的に調査するものなので、調査の趣旨を理解している宇治学研究者が在籍している小学校4校で実施した⁴⁾。

A小学校は、3年生3クラス、96名、6年生3クラス、91名である。B小学校は、3年生3クラス、90名、6年生3クラス、110名である。C小学校は、3年生2クラス、73名、6年生3クラス、77名である。D小学校は、3年生2クラス64名、6年生2クラス59名である。4校で3年生の質問紙調査は合計323名、6年生の質問紙調査は合計337名が調査対象者として回答・解答した。学校質問紙は、4校に学校長宛で依頼した。

質問項目について、1学期中に宇治学研究会で宇治学研究者と協議し、内容や文言の確認をした。調査要旨は夏休み中に配布し、2学期早々に調査を実施した⁵⁾。

4 児童質問紙の概要

4-1 「宇治学」で育てたい資質・能力に関する調査（図表1）

「学習方法に関すること」は、総合的な学習

の探究活動の学習過程である「課題発見」、「情報収集」、「整理分析」、「まとめ・表現」に合わせて、「課題発見・設定」、「情報収集・分析」、「思考判断」、「表現・省察」の4つの資質・能力を設定した。6年生では、学習終了後、学習したことを生かしていく力も必要だと考え、「振り返り」という資質・能力を設定した。3年生と6年生の発達段階に合わせて、それぞれの学年段階でどこまでの学習技能を求めるとかという視点で、質問の表現を考えた。

「自分自身に関すること」は、「宇治学」を通して、児童・生徒に身に付けさせたい力として、「意思決定」「計画実行」「自己理解」「将来展望」の4つの資質・能力を設定した。

「他者や社会とのかかわりに関すること」は、地域学習である「宇治学」として重要な資質・能力である。様々な地域の人と交流し、それぞれの人の立場を理解するための「他者理解」、地域の一員として、共に考え、これからの地域の将来を担っていかこうとする態度としての「協働・共生」、学んだことを生活に活かし、地域で活動する意欲としての「社会参画」という3つの資質・能力を設定した。

回答は、「そう思う」「どちらかというと思う」「そう思わない」「思わない」の4択で行った。

図表1 「宇治学」の学習効果に関する調査研究 調査質問文

学習方法に関すること

1		3年生	6年生
課題発見・設定	育てたい力	身の回りや地域の人、自然、ものと直接関わる中で、提示されたいくつかの課題から自らの課題を選ぶ。	身の回りや地域の人、自分を取り巻くもの、ことに対して抱いた関心や疑問について、問題解決の方法や手順を考え、見通しを持って計画を立てる。
	設問	自分の生活で、こんなふうにした方がいいということを見つけ、実行しようとしていると思いますか。	体験や活動を通して見つけた疑問や課題、調べたいことについて、問題解決の方法や手順を考えるなど、見通しを持って計画を立てることができていると思いますか。

2		3年生	6年生
情報収集・分析	育てたい力	話を聴く、質問をする、インタビューをする、メモをとる等、適切な方法で情報を収集する。	自分を取り巻く環境から、情報手段そのものを自分で選び、情報を収集したり、情報の取捨選択をしたりする。
	設問	話を聞く、質問をする、インタビューをする、メモをとるなど、様々な方法で情報を集めることができていると思いますか。	情報を集める方法を自分で選び、情報（資料）を集めて、集めた情報の中から必要な情報を選ぶことができていると思いますか。

3	思考判断	3年生	6年生
		育てたい力 比較する, 分類する, 関連付ける, 類推するといった方法で整理, 分析ができる。	事象の原因と結果を調べ, 統計的, 多角的, 科学的, 総合的等, 様々な方法で考察する。
	設問	集めた情報を, くらべる, 仲間分けをする, 関連づける, 予想するなどの方法を使って, 情報を整理することができていると思いますか。	集めた資料(情報)をもとに, 原因や結果を調べたり, 様々な方法で考えたりして, 自分の考えを持つことができていると思いますか。

4	表現・省察	3年生	6年生
		育てたい力 調べたことを工夫して伝える。(パンフレット, リーフレット, 年表, 新聞, 寸劇, ロールプレイ等)	目的や意図, 場面に応じて論理的に表現し, 問題状況における事実関係を把握し, 自分の考えを持ちわかりやすく伝える。(プレゼンテーション, デイベート, パネルディスカッション, ビデオレター等)
	設問	調べたことをパンフレット, 紙しばい, ペーパースートなどで工夫して伝えることができていると思いますか。	調べたことや自分の考えを, 相手や場面に応じて, 分かりやすく伝えることができていると思いますか。

5	振り返り	3年生	6年生
		育てたい力 無し	学習の仕方や進め方を振り返り, 学習や生活に生かそうとする。
	設問	無し	学習の仕方や進め方をふり返り, 学習や生活に生かそうとしていると思いますか。

自分自身に関すること

1	意思決定	3年生	6年生
		育てたい力 自分で見つけた課題に対し, めあてを持って積極的に探究活動をする。	自分で見つけた課題に対し, 目的意識を持って粘り強く探究活動をする。
	設問	自分で見つけた調べたいことを, めあてを持って進んで調べて, 意見や考えを持つことができていると思いますか。	自分で見つけた課題(問題)に対し, 目的をもって, ねばり強く調べ, 自分の意見を持つことができていると思いますか。

2	計画実行	3年生	6年生
		育てたい力 目標を設定し, 具体的な課題解決のための見通しを持ち, 簡単な計画に基づいて活動する。	日常生活を振り返りながら, 自分の課題と向き合い, 目標を明確にし, 具体的探究方法を明示した計画により活動する。
	設問	調べたいことについて, 簡単な計画を立て, 見通しを持って活動することができていると思いますか。	生活を振り返りながら, 自分の長所や短所などの性格をふまえ, 目標に向かって計画的に活動することができていると思いますか。

3	自己理解	3年生	6年生
		育てたい力 自らの生活の在り方を見直し, 実践する。	自らの生活の在り方を見直し, 日常的に実践する。
	設問	自分の生活で, こんな風にした方がいいということを見つけ, 実行しようとしていると思いますか。	自分の生活で, こんなふうにした方がいいということを見つけ, いつも実行しようとしていますか。

4	将来・展望	3年生	6年生
		育てたい力	今の自分を見つめ、これからの自分を想像し、高めようという思いを持つ。
	設問	今の自分より、良くなった自分を想像し、そうなりたいと思いますか。	自分をしっかり見つめ、よりよい自分になろうと考え、そうなるよう努力していると思いますか。

他者や社会とのかかわりに関すること

1	他者理解	3年生	6年生
		育てたい力	互いの意見を大切にし、認め合うことでお互いを高め合うことを知る。
	設問	自分の意見をしっかり話したり、友だちの意見をしっかり聞いたりすることが、自分も友だちも成長することにつながるのだと思いますか。	自分と他の人とのちがいや立場を考えて、自分とちがう考えも受け入れることができていると思いますか。

2	協働・共生	3年生	6年生
		育てたい力	仲間と力を合わせて活動し、課題を解決する。異なる意見、視点を受け入れることが課題解決の糸口につながる場合があることを知る。
	設問	友だちのちがった意見や考えのよさに気づき、力を合わせて活動することができていると思いますか。	多くの情報を集めたり、違った見方で調査したりして、友だちと一緒に課題（問題）の解決に取り組もうとしていると思いますか。

3	社会参画	3年生	6年生
		育てたい力	専門家や地域の方々との交流を重ねる中で、自分が社会の一員であることに気づき、課題の解決に向けて活動する意味を知る
	設問	地域の方々にお話を聞いたりすることをとおして、自分も地域の人々といっしょに生活しているんだなあと思いますか。	グループや集団で学習をすすめたり、専門家や地域の方々と交流したりするなかで、自分も地域に役立つことができるのではないかなあと思いますか。

4-2 望ましい生活習慣・学習習慣に関する調査（図表2）

資質・能力は生活習慣・学習習慣と関連があるという仮説にたち、宇治学を实践するに当たって「望ましい生活習慣・学習習慣」と考えられる項目を質問項目に入れ、資質・能力と生活習慣・学習習慣に関連性があるのかを調査した⁶⁾。「達成力」「挑戦力」「発信力」は資質・能力を支え、伸ばすために、「問題意識」「社会参加」「社会貢献」「ホスピタリティ」は地域とかわるために、「NIE」「時事問題」「読書習慣」は地域について考える力をつけるために必要であると想定した。このような生活習慣・学習習

慣が身についていることが、宇治学で育てたい資質・能力を育成する上で重要であるという仮説のもと、関連性を調査した。

図表 2 望ましい生活習慣・学習習慣に関する調査研究 調査質問文

達成力	物事を最後までやりとげてうれしかったことがありますか。
挑戦力	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。
発信力	友達の前で、自分の考えや意見を発表することは得意ですか。
社会参加	今住んでいる地域の行事に参加していますか。
問題意識	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。
社会貢献	地域や社会をよくするために何をしたら良いかを考えることがありますか。
ホスピタリティ	地域のボランティア活動に参加したことがありますか。
NIE	新聞を読んでいますか。
時事問題	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ていますか。
読書習慣	学校や宇治市（京都市）の図書館で、本を読んだり、本を借りたりすることがありますか。

4-3 学校・地域の特性に関する調査（図表3）

児童の資質・能力や生活習慣・学習習慣は学校の取り組みや地域の特性などの教育環境に影響を受けることが想定される。そこで、児童の質問紙とは別に、調査対象の学校を対象に学校・地域の特性に関する質問紙を実施し、学校・地域の特性によって、児童の質問紙の結果にどのような関係性が見られるのかを調査した⁷⁾。

学校質問紙は、学校（地域）の特性を問う設

問として、「PTA 活動」「学校支援ボランティア活動」「地域への学校理解」「地域への情報発信」の4つの項目からなる。

また、学習の状況を問う設問として、「外部講師」「授業サポート」「情報教育」「社会参画授業」「地域学習」の5つの項目がある。児童がこれまでどのような学習経験をしてきたかを問う。既習経験により、生活習慣・学習習慣や資質・能力に影響を与えることが想定される。

図表 3 学校・地域の特性に関する調査研究 調査質問文

学校の 状況	PTA活動	PTA(育友会)や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか。
	学校支援ボランティア活動	保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。
	地域の学校理解	地域は、学校の教育活動に協力的ですか。
	地域への情報発信	学校の教育活動の状況を地域へ発信していますか。
学習の 状況	外部講師	地域の人材を外部講師として招聘した授業
	授業サポート	ボランティア等による授業サポート(補助)
	情報教育	コンピュータ教室、図書室を利用した授業
	社会参画授業	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような授業
	地域学習	授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定

5 「宇治学」のレディネス診断結果と分析

5-1 資質・能力の調査結果と分析

(図表4,5)

資質・能力の回答は、「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」「思わない」「思わない」の4択になっている。「そう思う」が望ましい姿であり、「思わない」が

望ましくない姿としている。「そう思う」を4点、「思わない」を1点とし、各項目の平均値をとった。平均値が2点を超えれば、資質・能力の自己評価としての肯定的な意見が否定的な意見を上回っているが、本研究では、3点以上を資質・能力が身に付いている状態、2点以下は資質・能力が身に付いていない状態として想

定して分析した。また、相対的に高い項目や低い項目に着目して、特に高い項目は資質・能力が身に付いている状態。低い項目は資質・能力が身に付いていない状態と想定して分析した。

3年生の調査結果の資質・能力では、「学習方法に関すること」が全て2点台であり、他の領域よりも点数が低い。「宇治学」で育てる資質・能力として、学習方法を学ばせることが必要である。特に、「表現・省察」(3年生2.3、6年生2.69)が一番低いので、学習過程としての「まとめ・表現」を充実させなければならない。学習方法の技能は全ての教科、領域で必要であることから、「宇治学」で学習方法の技能が身につけば、他の教科、領域の基盤となる学習技能を身につけさせることとなり、「宇治学」の重要性が増すこととなる。6年生の調査結果の資質・能力も同様の傾向が見られるが、「振り返り」の平均値は3.01であり、他と比べると高い。学習の仕方や進め方を、他の学習や生活

に活かそうとする態度が見られる。これは学習の基盤となる資質・能力を育成する上で重要であり、そうした意識を、学習を通じて持たせなければならない。

3年生の調査結果では、「他者や社会にかかわるに関すること」は3項目中2項目で3点台であり、残る1項目も2.89と高い。友達や地域の人と交流し、活動する資質・能力は、これまでの学校教育活動の中である程度培われているといえる。この資質・能力は「宇治学」のような地域学習を行っていくうえで必要であり、「宇治学」を行う基盤はできているといえる。一方で、6年生では、3年生では3.22だった「社会参画」が2.48と低くなっている。高学年の方が、社会参画の意識を持たせることが難しいのかもしれない。3年生から「他者や社会にかかわるに関すること」の資質・能力を高め、維持していかなければならない。

平均値が最も高かったのは3年生、6年生と

図表4 3年生 資質・能力と生活習慣・学習習慣の平均値 N=323

		A小学校	B小学校	C小学校	D小学校	4校児童の平均値
学習方法	課題発見・設定	3.01	2.73	2.74	3	2.87
	情報収集・分析	2.85	2.52	2.67	2.55	2.66
	思考判断	2.83	2.67	2.52	2.86	2.72
	表現・省察	2.54	2.33	1.93	2.31	2.3
自分自身	意志決定	2.47	2.3	2.68	3.03	2.58
	計画実行	2.77	2.14	2.24	2.92	2.5
	自己理解	3.22	2.82	2.73	3	2.95
	将来・展望	3.44	3.29	3.35	3.67	3.42
社会	他者理解	3.35	2.79	2.95	3.39	3.11
	協働・共生	2.81	2.9	2.9	2.97	2.89
	社会参画	3.43	2.98	3.16	3.31	3.22
生活習慣・学習習慣	達成力	3.65	3.34	3.55	3.58	3.52
	挑戦力	3.12	2.83	3.03	3.22	3.04
	発信力	2.29	2.15	2.57	2.62	2.38
	社会参加	3.41	3.31	3.01	2.65	3.14
	問題意識	2.61	2.78	3.04	3.05	2.84
	社会貢献	2.36	2.1	2.55	2.7	2.4
	ホスピタリティ	1.88	2.6	2.26	2.25	2.24
	NIE	1.57	1.83	1.5	1.36	1.58
	時事問題	3.38	3.4	3.36	3.31	3.37
読書習慣	3.34	3.63	2.93	2.95	3.25	

図表 5 6年生 資質・能力と生活習慣・学習習慣の平均値 N=337

		A小学校	B小学校	C小学校	D小学校	4校児童の平均値
学習方法	課題発見・設定	2.9	2.77	2.71	2.58	2.76
	情報収集・分析	3.05	2.88	3.09	2.63	2.93
	思考判断	2.98	2.82	2.8	2.71	2.84
	表現・省察	2.86	2.71	2.61	2.49	2.69
	振り返り	3.03	2.97	2.96	3.14	3.01
自分自身	意志決定	2.79	2.78	2.74	2.64	2.75
	計画実行	2.99	2.81	2.78	2.76	2.84
	自己理解	3.03	2.95	2.87	2.97	2.96
	将来・展望	3.11	3.03	3.25	3.24	3.14
社会	他者理解	3.23	3.05	3.03	3.22	3.13
	協働・共生	3.16	2.87	2.97	2.93	2.98
	社会参画	2.71	2.29	2.52	2.41	2.48
生活習慣	達成力	3.84	3.78	3.69	3.88	3.79
	挑戦力	3.02	2.97	2.99	3.05	3
	発信力	2.42	2.5	2.34	2.46	2.43
	社会参加	2.93	2.67	2.71	2.24	2.67
	問題意識	2.8	2.95	2.64	2.42	2.75
	社会貢献	2.48	2.5	2.18	2.34	2.39
	ホスピタリティ	2.23	2.15	1.91	1.88	2.07
	NIE	1.92	1.8	1.4	1.41	1.67
	時事問題	3.58	3.44	3.27	3.24	3.41
	読書習慣	2.74	2.62	2.36	2.59	2.59

もに「将来・展望」（3年生3.42、6年生3.14）である。4校とも3点を超えており、学校間格差も見られない。「今の自分より、よくなった自分を想像し、そうになりたい」というのは、向上心の現れであり、「宇治学」の学習を通してどのような力（資質・能力）が身につくのかを学習の始めの段階で示すことにより、児童の学習意欲が向上する。教師だけが学習の見通しを持ち、そのときそのときに子どもが活動するのではなく、子どもと教師と一緒に活動計画を構想し、ゴールイメージを明確に持つ学習が必要となる。

5-2 生活習慣・学習習慣の調査結果と分析 (図表4,5)

生活習慣・学習習慣の回答は、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」の4択になっている。「当てはまる」が望ましい

姿であり、「当てはまらない」が望ましくない姿としている。「当てはまる」を4点、「当てはまらない」を1点とし、各項目の平均値をとった。

資質・能力と同様、平均値が2点を超えれば、自己評価としての肯定的な意見が否定的な意見を上回っているが、本研究では、3点以上を生活習慣・学習習慣が身に付いている状態、2点以下は生活習慣・学習習慣が身に付いていない状態として想定して分析した。また、相対的に高い項目や低い項目に着目して、特に高い項目は生活習慣・学習習慣が身に付いている状態。低い項目は生活習慣・学習習慣が身に付いていない状態と想定して分析した。

最も低かったのは、3年生、6年生ともに「NIE」（3年生1.58、6年生1.67）である。新聞の購読数が減少している状況で、小学生にとって新聞を読むのは難しいこともあり、低いのはある程度はやむをえない。この項目を入れ

たのは、全国学力学習状況調査の質問紙にも同様の質問があることもあるが、新聞の閲覧頻度が高いほど学力が高いという結果が出ていることによる⁸⁾。新聞を通じて情報を積極的に得ようとする態度が、学力の高さに表れるというデータがある。しかし、「時事問題」は高く、テレビやインターネットでニュースを見ている割合は高い。社会に関心を持つ姿勢を持たせることは、地域に関心を持つことにつながり、「宇治学」を実践する上で重要な習慣として位置づける必要がある。

他に低い項目として、「ホスピタリティ」（3年生2.24、6年生2.07）と「社会貢献」（3年生2.4、6年生2.39）がある。3年生は、「社会参加」は3.14であり、地域の行事に参加している児童は少ないわけではない。地域でボランティア活動をするなど社会参加する機会があまりないのかもしれない。6年生の「社会参加」は2.67だが、「ホスピタリティ」や「社会貢献」より高く、同様のことが言えるのではないか。

発信力」（3年生2.38、6年生2.43）もあまり高くない。学習方法の「表現・省察」（3年生2.3、6年生2.69）が低かったことと考え合わせると、「表現・省察」の技能が身につけていないことにより「発信力」が身につけていないとも考えられる。

5-3 児童質問紙と学校質問紙のクロス調査結果と分析

学校質問紙の学校の状況の回答は、質問に応じる形で「よく参加してくれている」「そう思う」「大変協力的」「積極的に発信している」となっているが、いずれも4択であり、できている状況を4点とし、できていない状況を1点として、各項目の平均値をとった。学習状況の回答は、「よく行った」「どちらかというに行った」「あまり行っていない」「全く行っていない」の4択になっている。「よく行った」を4点、「全く行っていない」を1点とし、各項目の平均値をとった。

平均値が2点を超えれば、自己評価としての肯定的な意見が否定的な意見を上回っているが、本研究では、3点以上を「宇治学」を実践しや

すい状況、2点以下は「宇治学」を実践しにくい状況として想定して分析した。また、相対的に高い項目や低い項目に着目して、特に高い項目は「宇治学」を実践しやすい状況。低い項目は「宇治学」を実践しにくい状況と想定して分析した。なお、地域の状況は、学校の取組だけでなく、学校のおかれている教育環境や宇治学的資源など、様々な要因が考えられる。しかし本研究では、現在の学校の状況と児童の自己評価の関係についてのみを分析対象とし、「宇治学」実践上の課題を明らかにしたい。それ以外の要因については、さらに学校の状況を詳細に分析する必要がある、それは今後の課題とする。

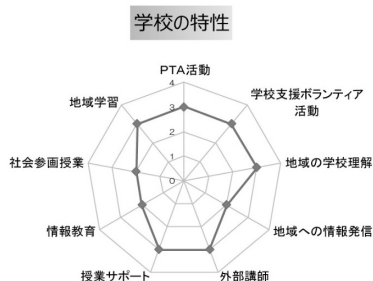
5-3-1 A 小学校の児童質問紙と学校質問紙のクロス調査結果と分析（図表6,7）

A 小学校の学校質問紙で、学校の状況は、「地域への情報発信」だけが2点と低い。3年生の学習の状況では、「情報教育」、「社会参画授業」が2点と低くなっている。児童質問紙では、「ホスピタリティ」（1.88）、「社会貢献」（2.36）、「発信力」（2.29）が低く、地域への情報発信や社会参画授業が少ないことにより、ホスピタリティや社会貢献、発信力が児童に身に付いていない状態になっている。

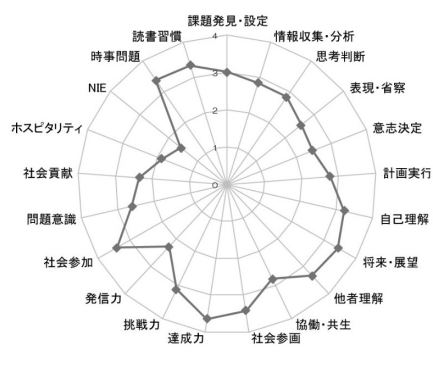
6年生の学習の状況では、「情報教育」、「社会参画授業」は3点で、「地域学習」は4点となっている。3年生で低かった「ホスピタリティ」（2.23）、「社会貢献」（2.48）、「発信力」（2.42）はいずれも3年生を上回っており、6年生の学習経験が生活・学習習慣に好影響を与えている。

図表 6 A 小学校 3 年生の児童質問紙 (N=96) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	3
	学校支援ボランティア活動	3
	地域の学校理解	3
	地域への情報発信	2
学習の状況	外部講師	3
	授業サポート	3
	情報教育	2
	社会参画授業	2
	地域学習	3
学習方法	課題発見・設定	3.01
	情報収集・分析	2.85
	思考判断	2.83
	表現・省察	2.54
自分自身	意志決定	2.47
	計画実行	2.77
	自己理解	3.22
	将来・展望	3.44
社会	他者理解	3.35
	協働・共生	2.81
	社会参画	3.43
生活習慣	達成力	3.65
	挑戦力	3.12
	発信力	2.29
	社会参加	3.41
	問題意識	2.61
	社会貢献	2.36
	ホスピタリティ	1.88
	NIE	1.57
	時事問題	3.38
	読書習慣	3.34

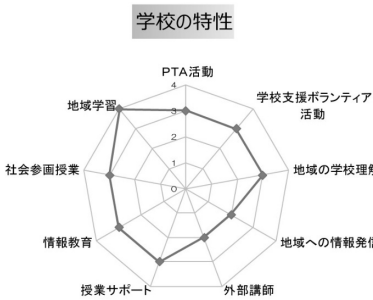


児童の平均値

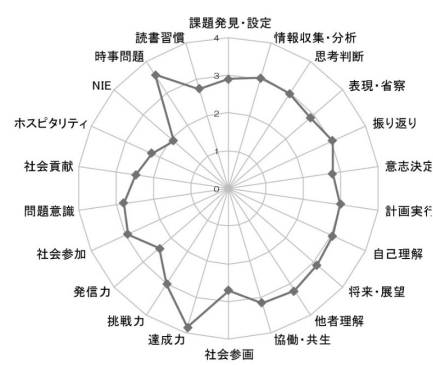


図表 7 A 小学校 6 年生の児童質問紙 (N=91) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	3
	学校支援ボランティア活動	3
	地域の学校理解	3
	地域への情報発信	2
学習の状況	外部講師	2
	授業サポート	3
	情報教育	3
	社会参画授業	3
	地域学習	4
学習方法	課題発見・設定	2.90
	情報収集・分析	3.05
	思考判断	2.98
	表現・省察	2.86
	振り返り	3.03
自分自身	意志決定	2.79
	計画実行	2.99
	自己理解	3.03
	将来・展望	3.11
社会	他者理解	3.23
	協働・共生	3.16
	社会参画	2.71
生活習慣	達成力	3.84
	挑戦力	3.02
	発信力	2.42
	社会参加	2.93
	問題意識	2.80
	社会貢献	2.48
	ホスピタリティ	2.23
	NIE	1.92
	時事問題	3.58
	読書習慣	2.74



児童の平均値



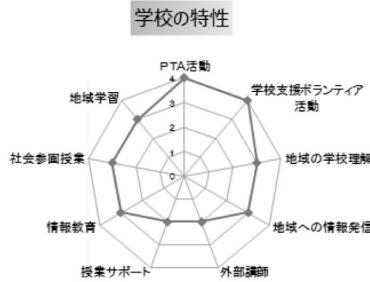
5-3-2 B 小学校の児童質問紙と学校質問紙のクロス調査結果と分析 (図表 8, 9)

B 小学校学校質問紙で、学校の状況は、「PTA 活動」「学校支援ボランティア」がいずれも 4 点と高い評価となっている。家庭・保

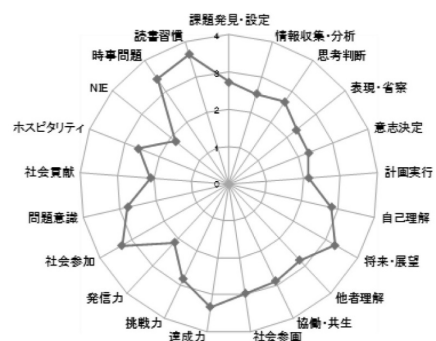
護者の協力は得られている状態である。一方で、3 年生の学習の状況では、「外部講師」「授業サポート」がいずれも 2 点と低くなっている。家庭・保護者の協力は得られているが、それ以外の外部の連携は進んでいない。

図表 8 B小学校3年生の児童質問紙 (N=90) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	4
	学校支援ボランティア活動	4
	地域の学校理解	3
	地域への情報発信	3
学習状況	外部講師	2
	授業サポート	2
	情報教育	3
	社会参画授業	3
	地域学習	3
学習方法	課題発見・設定	2.73
	情報収集・分析	2.52
	思考判断	2.67
	表現・省察	2.33
自分自身	意志決定	2.30
	計画実行	2.14
	自己理解	2.82
	将来・展望	3.29
社会	他者理解	2.79
	協働・共生	2.90
	社会参画	2.98
生活習慣	達成力	3.34
	挑戦力	2.83
	発信力	2.15
	社会参加	3.31
	問題意識	2.78
	社会貢献	2.10
	ホスピタリティ	2.60
	NIE	1.83
	時事問題	3.40
	読書習慣	3.63

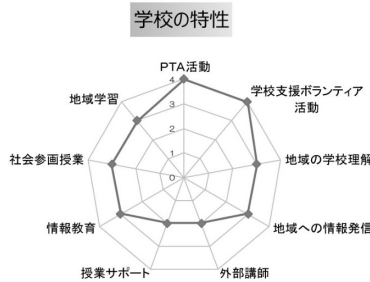


児童の平均値

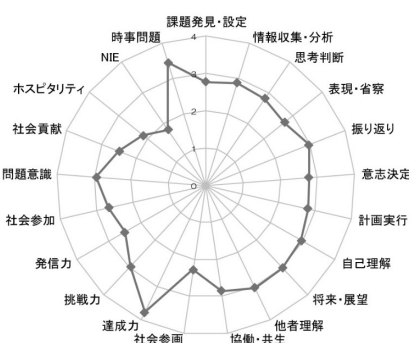


図表 9 B小学校6年生の児童質問紙 (N=110) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	4
	学校支援ボランティア活動	4
	地域の学校理解	3
	地域への情報発信	3
学習状況	外部講師	2
	授業サポート	2
	情報教育	3
	社会参画授業	3
	地域学習	3
学習方法	課題発見・設定	2.77
	情報収集・分析	2.88
	思考判断	2.82
	表現・省察	2.71
	振り返り	2.97
自分自身	意志決定	2.78
	計画実行	2.81
	自己理解	2.95
	将来・展望	3.03
社会	他者理解	3.05
	協働・共生	2.87
	社会参画	2.29
生活習慣	達成力	3.78
	挑戦力	2.97
	発信力	2.50
	社会参加	2.67
	問題意識	2.95
	社会貢献	2.50
	ホスピタリティ	2.15
	NIE	1.80
	時事問題	3.44
	読書習慣	2.62



児童の平均値



児童質問紙では、「社会参加」が3.31と高いが、「社会貢献」(2.10)、「発信力」(2.15)は低い。社会参加することはあるが、それが社会貢献や地域への発信には結びついていない状況にある。一方で、「時事問題」(3.40)、「読書習

慣」(3.63)は高い。これらの生活習慣は家庭での働きかけと関連があり、家庭の教育力も高いことが分かる、それが学校への協力体制にもつながっている。

6年生の学習の状況では、「外部講師」「授業

サポート」は3年生と同様2点となっている。「社会貢献」(2.5)、「発信力」(2.5)は3年生よりも高くなっているが、やはり高い水準とは言えない。「時事問題」は3.44で高いレベルだが、「読書習慣」は2.62と下がっている。要因としては、教育熱心な家庭が多いことにより、

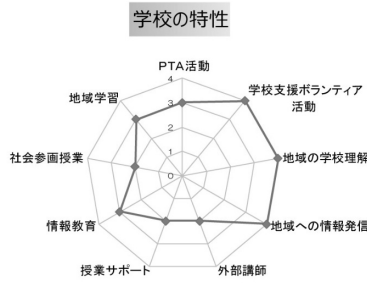
6年生になると塾などにより、読書する機会が減っていることが考えられる。

5-3-3 C小学校の児童質問紙と学校質問紙のクロス調査結果と分析 (図表10,11)

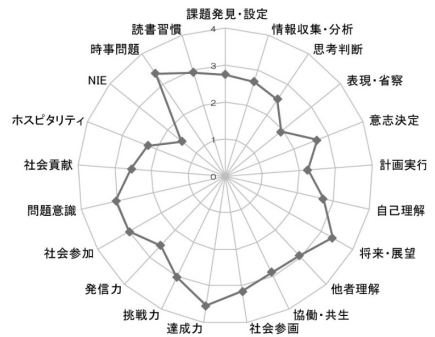
C小学校学校質問紙で、学校の状況は、「学

図表10 C小学校3年生の児童質問紙 (N=73) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	3
	学校支援ボランティア活動	4
	地域の学校理解	4
	地域への情報発信	4
学習状況	外部講師	2
	授業サポート	2
	情報教育	3
	社会参画授業	2
	地域学習	3
学習方法	課題発見・設定	2.74
	情報収集・分析	2.67
	思考判断	2.52
	表現・省察	1.93
自分自身	意志決定	2.68
	計画実行	2.24
	自己理解	2.73
	将来・展望	3.35
社会	他者理解	2.95
	協働・共生	2.90
	社会参画	3.16
生活習慣	達成力	3.55
	挑戦力	3.03
	発信力	2.57
	社会参加	3.01
	問題意識	3.04
	社会貢献	2.55
	ホスピタリティ	2.26
	NIE	1.50
	時事問題	3.36
	読書習慣	2.93

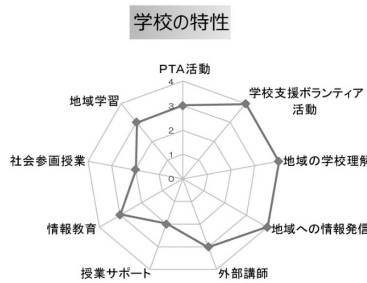


児童の平均値

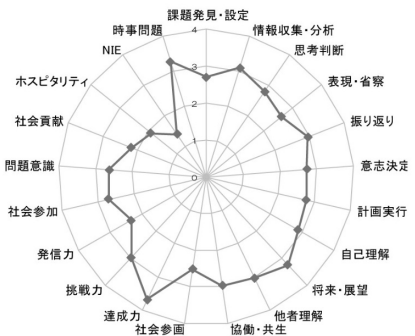


図表11 C小学校6年生の児童質問紙 (N=77) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	3
	学校支援ボランティア活動	4
	地域の学校理解	4
	地域への情報発信	4
学習状況	外部講師	3
	授業サポート	2
	情報教育	3
	社会参画授業	2
	地域学習	3
学習方法	課題発見・設定	2.71
	情報収集・分析	3.09
	思考判断	2.80
	表現・省察	2.61
	振り返り	2.96
自分自身	意志決定	2.74
	計画実行	2.78
	自己理解	2.87
	将来・展望	3.25
社会	他者理解	3.03
	協働・共生	2.97
	社会参画	2.52
生活習慣	達成力	3.69
	挑戦力	2.99
	発信力	2.34
	社会参加	2.71
	問題意識	2.64
	社会貢献	2.18
	ホスピタリティ	1.91
	NIE	1.40
	時事問題	3.27
	読書習慣	2.36



児童の平均値



校支援ボランティア」「地域への学校理解」「地域への情報発信」がいずれも4点と高い評価となっている。地域との連携はできていると考えられる。3年生の学習の状況では、「外部講師」「授業サポート」「社会参画授業」がいずれも2点と低くなっている。地域との連携はできているが、それが学習には反映されていない。児童質問紙では、「表現・省察」が1.93と低い。地域との連携はできているので、学習のまどめの段階で、地域への発信を積極的にしていくことにより、「表現・省察」の資質・能力が伸びていくと考えられる。

6年生の学習の状況では、「授業サポート」、「社会参画授業」が3年生同様2点と低くなっているが、「外部講師」は3点になっている。「表現・省察」が2.61であり、3年生より改善されている。しかし、「ホスピタリティ」が1.91と低いので、地域との連携を生かし、地域にもっと関心を持たせる学習を展開するべきである。

5-3-4 D 小学校の児童質問紙と学校質問紙のクロス調査結果と分析（図表12,13）

D 小学校学校質問紙で、学校の状況は、「PTA活動」「地域への情報発信」がいずれも4点と高い評価となっている。家庭との連携はできている。3年生の学習の状況では、「情報教育」「社会参画授業」がいずれも2点と低くなっている。児童質問紙では、「ホスピタリティ」が2.25と低い。地域に目を向ける取り組みが必要である。

6年生の学習の状況では、全ての項目が2点であり、「宇治学」を実践する上での学習経験が不足している。「ホスピタリティ」が1.88と3年生よりさらに低くなっている。他の項目も全体的に3年生より低いところが多い。3年生から資質・能力や生活習慣・学習習慣が段階的に向上していくような取り組みが必要である。

6 本研究の成果と課題

本研究では、4校の3年生と6年生への児童質問紙と学校質問紙を実施し、「宇治学」のレディネスを分析し、「宇治学」実践上の課題を明らかにした。4校の調査結果を詳細に分析することにより、学校や地域の状況、児童の資質・能力、生活習慣・学習習慣の現状と課題を明らかにすることができ、「宇治学」をどのような視点で行っていくことが重要であるのかを示すことができた。

本研究は、今後調査研究を継続していくにあたり、調査方法を検討するパイロット研究に位置づく。宇治市内の22校の小学校の4校であり、全体の4分の1程度の調査であるため、本研究の調査結果及び分析が、宇治市内の全ての小学校に当てはまるとは言えない。しかし、調査を試験的に行ったことで、今後の「宇治学」実施後の全市調査実施に向けて、運営についての知見を得ることができた。また、本研究で実施した調査方法で、「宇治学」の学習効果検証ができる見通しを立てることができた。

今後は、本研究の成果を生かして全市調査を実施し、全市の傾向分析をする。さらに、調査を継続して、経年変化を見ていくことで、「宇治学」の実践がどのような成果を挙げているのかを検証していきたい。本研究の調査研究の成果を生かし、「宇治学」がより効果的な学習となるような学習モデルを作っていくことが必要である。

謝辞

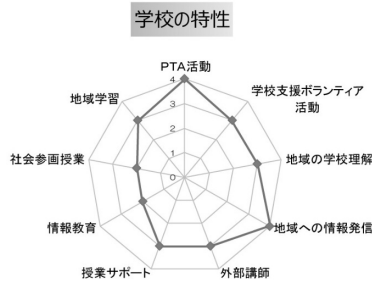
本研究では、宇治市教育委員会及び宇治学研究員、宇治市内の調査対象校から多大なるご支援をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

付記

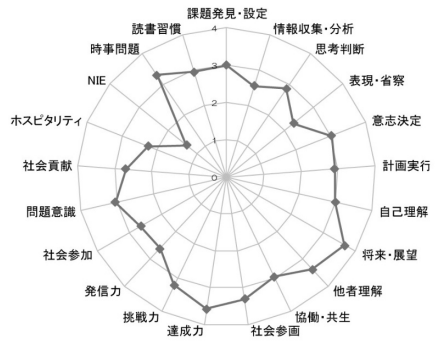
本研究は、科研費(C)17K048930001「総合的な学習の副読本作成による地域協働型教材開発と評価・改善に関する実証的研究」(研究代表者：橋本 祥夫)の研究の一環として実施したものである。

図表12 D小学校3年生の児童質問紙 (N=64) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	4
	学校支援ボランティア活動	3
	地域の学校理解	3
	地域への情報発信	4
学習の状況	外部講師	3
	授業サポート	3
	情報教育	2
	社会参画授業	2
学習方法	課題発見・設定	3.00
	情報収集・分析	2.55
	思考判断	2.86
	表現・省察	2.31
自分自身	意志決定	3.03
	計画実行	2.92
	自己理解	3.00
	将来・展望	3.67
社会	他者理解	3.39
	協働・共生	2.97
	社会参画	3.31
生活習慣	達成力	3.58
	挑戦力	3.22
	発信力	2.62
	社会参加	2.65
	問題意識	3.05
	社会貢献	2.70
	ホスピタリティ	2.25
	NIE	1.36
	時事問題	3.31
	読書習慣	2.95

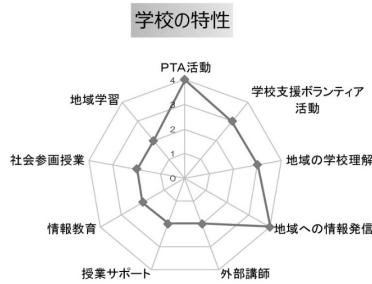


児童の平均値

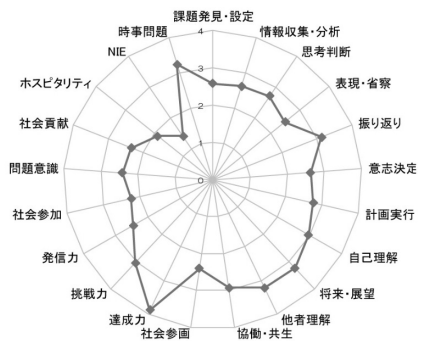


図表13 D小学校6年生の児童質問紙 (N=59) と学校質問紙のレーダーチャート

学校の状況	PTA活動	4
	学校支援ボランティア活動	3
	地域の学校理解	3
	地域への情報発信	4
学習状況	外部講師	2
	授業サポート	2
	情報教育	2
	社会参画授業	2
学習方法	課題発見・設定	2.58
	情報収集・分析	2.63
	思考判断	2.71
	表現・省察	2.49
自分自身	振り返り	3.14
	意志決定	2.64
	計画実行	2.76
	自己理解	2.97
社会	他者理解	3.22
	協働・共生	2.93
	社会参画	2.41
生活習慣	達成力	3.88
	挑戦力	3.05
	発信力	2.46
	社会参加	2.24
	問題意識	2.42
	社会貢献	2.34
	ホスピタリティ	1.88
	NIE	1.41
	時事問題	3.24
	読書習慣	2.59



児童の平均値



注

- 1) レディネスは、子どもがあることを学習する準備ができていない状態のことで、効果的な学習を考える上で重要な概念である。準備ができていない状態とは、学習して身につけるために必要な知識、経験、身体、精神といった条件の整備が考えられる。
- 2) 小学校学習指導要領（平成29年3月公示）では、総合的な学習の育てようとする資質や能力及び態度については3つの観点を踏まえることが示されている。
- 3) 実際に回答するのは該当学年の教員である場合が想定されるが、質問紙の説明文書に「校長の責任で回答してください」という文言を入れ、教員の個人的な感想にならないよう学校として責任ある回答を求めた。
- 4) 宇治学研究員は、副読本作成にもかわり、宇治学推進を担う中核教員で構成されている。質問紙の項目、文言については、宇治学研究員と協議の上、決定している。
- 5) 実態調査として宇治学実施前に行うことが必要のため、調査は早期にしたかったが、初めての質問紙調査であり、比較検討のため質問項目は今後とも踏襲することになるため、慎重に検討し、内容や文言のチェックに時間をかけた。
- 6) 生活習慣・学習習慣の質問内容は、全国学力学習状況調査の質問紙の中から、宇治学（地域学習）を行うにあたり、関連性があると思われる質問文を抽出した。全国学力学習状況調査の質問紙なので、学力（資質・能力）との関連性が高いものが提示されており、質問には妥当性があると考えた。
- 7) 学校・地域の特性に関する質問も、全国学力学習状況調査の学校質問紙の中から、「宇治学」（地域学習）を行うにあたり、関連性があると思われる質問文を抽出した。
- 8) 2015年度から2017年度まで3年間連続で、新聞閲読頻度に比例して平均正答率が高かった。各教科（国語 A, B、算数 A, B、数学 A, B、理科）で「ほぼ毎日」と答えた児童生徒の正答率が最も高く、読まなくなるにつれて低くなっている。しかし、新聞を読んでいる児童生徒の数自体は減少傾向が続いている。